

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4790100079		
法人名	有限会社ヘルスサポート		
事業所名	グループホーム若狭の家		
所在地	沖縄県那覇市若狭3F		
自己評価作成日	令和元年 7 月 29 日	評価結果市町村受理日	令和元年11月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4790100079-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4790100079-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和元年 8 月 31 日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

法人には、3事業所のグループホームがあり連携を取り職員の教育研修や医療の連携の充実 により良いサービスの質の向上に努め利用者の思いや希望を聞く機会を持ちその人らしい生活が送れるよう支援しています。又地域ネットワーク会議にも参加し情報交換を行い地域の方からの誘やボランティアの方と一緒に近くの公園で音楽を聴きながらボール遊びや紙芝居をして頂き又看護学生の実習では、学生の企画によるレクや手工芸を一緒に仕上げ触れ、利用者の表情もよく笑顔が見られることで安心した生活を送っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当該事業所は、独自の理念である「ゆいまーる精神」を掲げ、職員共通認識を持ち、一方的なサービスにならないように、なにごとにも利用者と共に共同で行うことを意識している。利用者が地域社会の一員であることを認識できるよう定期的に開催されるお祭り・3丁目祭り、団地祭り、ゆんたく会等行事に参加したり、保育園に出向きこどもたちとの交流も継続している。管理者はネットワーク会議に参加し情報交換を行い、地域に根ざした事業所として取り組みを行っている。職員はシニア層での構成ならではの知恵と工夫を存分に発揮し、シニア活躍のロールモデルとなり得る。ボランティアや看護学生の実習の受け入れを定期的に行い、はじめて接する利用者とのコミュニケーションに戸惑わないようとの配慮で利用者一人ひとりの氏名年齢に加え特徴やコミュニケーションのポイント等を記載したメモを手渡している(職員のアイデア)  
日常的に、職員のギター演奏で利用者が歌を歌ったり、職員が描いた絵画を廊下に飾り癒しの空間作りをしたり、絵を描く等の知的活動を支援する等、利用者の日々の暮らしが実り豊かなものであるよう支えている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は、見やすい場所に掲載しゆいまへの豊かな心で心身の力が発揮出来るよう支援しています。利用者と一緒に復唱しています。	事業所内で現状に即した理念について話し合いを重ね、管理者・職員の思いが込められた「ゆいまる精神」を謳った事業所独自の理念が誕生した。日々、利用者と共に唱和し、一方的な支援ではなく、何を行うにしても利用者との協力を意識しながら実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	買物支援自治会や地域の人の行事の事をネットワーク会議や運営会議の祭行事の事を教えて頂き地域文化際などに参加し交流を行っています。	利用者が地域社会の一員であることを認識できるよう定期的開催されるお祭り・3丁目祭り、団地祭り、ゆんたく会等行事に参加したり、保育園に出向き子どもたちとの交流も継続している。事業所1階にある「地域連携室」は地域の方へ無料で貸し出しを行っている。管理者は自治会のボランティア活動(草刈等)を積極的に行い地域貢献を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は地域認知カフェでの交流を図りボランティアや実習生の受け入れも積極的に行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回(偶数月)に運営会議を開催しグループホームでの現状の報告を行いメンバーの方から質問要望を受けながら話し合いサービスの向上に取り組んでいる。行政とも連携している。	年6回運営推進会議を定期的実施している。利用者や家族行政職員や地域包括支援センター職員、知見者、自治会長、民生委員等が参加しているが現状報告のみでとどまっている。活発な意見交換及び分かりやすい議事録の整備で更なるサービス向上に期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で市と連携を取っている。報告を包括支援センターでの認知カフェの参加や勉強会など認知ケアの向上に努めている。	地域ネットワーク会議にて市や地域連携の検討会議のほか、毎月定期的に勉強会を実施している。勉強会の内容は日常業務で抱える課題や悩みなどに即したテーマ(認知症について・身体拘束・虐待等)で情報交換を行っている。勉強会の内容は職員間で共有しサービス向上に取り組んでいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年事業所の勉強会の中で(身体拘束ゼロ宣言)を行い職員で周知している。身体拘束は実施していない。玄関は、施錠しない鈴の音で解かるよう支援している。	玄関は施錠せず、ドアに鈴をつけ、すぐに気づき、行動を抑制せずに安全面に注意を払っている。利用者家族にも身体拘束しないケアについて説明を行っている。管理者は、職員に、忙しくても感情的にならないようにと指導している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	年1回の研修に参加し学んでいる。不適切ケアにあたらないように職員間で協力して支援職員間で協力して支援を行っている。地域ネットワーク会議主催の高齢者虐待についての研修にも参加し職員にも周知している。	職員は、講習や勉強会で定期的に虐待について学んでいる。勉強する前と後ではケアに良い変化があったとの職員の声もある。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用者に対象者は、いないが年1回の施設内研修に参加してあり個々施設内研修を受け学習して学んだことを活用できる。ようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書、重要事項説明書に基づいて説明を行い疑問点を訪ね説明を行い理解を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の中で意見や要望を確認し家族は、面会時や電話連絡時、ケアプランの見直し時など意見、要望を確認している。	家族会開催時や、面会時に、家族からの意見要望をきく機会としている。面会の間隔があいている方には電話入れし面会を促している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回の管理者会議月1回の運営会議開催の運営会議開催ミーティングや勉強会、で意見交換を行っている。	朝の申し送りや月1回の会議で職員からの意見を聞き管理者会議や運営会議で本部に要望を伝えている。資格をとりたいという職員には、法人が全面的にバックアップしている。職員からの意見で地域行事への参加が多いため、当日が入浴日の方の負担を考え話し合った結果、参加日前後に振り分ける提案を受け見直しが行われた。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度により個別に意見を聞き又代表者が話を聞いている。①目的意識の明確化(仕事の楽しさ)②作業の明確化(担当者が本当にやるべき事とやらなくて良い事を区別することによりゆとりを持って利用者に接することができる。③労働条件の改善(給与の見直し、残業をなくし生きがいをもちながら働ける職場となるように職員を増やし更にゆとりのある職場とする。	法人内で研修が定期的に行われ学ぶ機会を設けている。これまで一律の手当てだったものが、勤続年数を掛けた手当てで支給されることで支給額が上がり職員のモチベーション保持に繋がった。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内では月1回の研修を行い定期的な法人の勉強会や外部研修の受講を推奨している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターや法人内の事業者と連携し情報共有し合い那覇市のグループホームや県のグループホームの集まりで情報を交換している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い本人の施設での暮らしぶりを記録し本人、家族の要望を聞いたりアセスメントを行い本人の思いを尊重しています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談を行い家族の要望をこれまでの経過や現在困っていることなどを聞き話し合いを行っている。入居後も面会時に情報交換や現状を伝えたりし信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が必要とするサービスについて聞き取り連絡が出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者、職員共に生活の場を捉え個人の生活パターンペースに合わせて暮らしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の出来ることをお願いし出来ない事を職員と一緒に支え合いながら馴染みの関係作りをしながら寄り添い共に生活をしながら関係を築いている…		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加したり外出で公園に出かけた際は、サーターアンダーギーを買い馴染みの場所と人との関係を大切にしています。	本人のこれまでの習慣を大切に、馴染みの場所や、好きな食べ物の買い物等支援を継続している。家族や地域の方をまねき、食事をつくっておもてなしをしたりして絆を深め、関係性を構築している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同志の関係に配慮しながらテーブル椅子の位置等入居同志でコミュニケーションが取れるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された後も家族と連絡を取り病院退院後について相談等を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意思に添えるように買い物散歩運動 レクリエーション歌などを実施している。	本人の思いや暮らし方の意向の把握に努めている。これまでの習慣を汲んで、家族協力のもと、(数千円)お金の管理をしている方もいる。外出した際に好きなものを自由に購入できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人が出来る事を生活歴やサービス時を把握し職員へ周知する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の出来ること現状把握に努め自立支援している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族から要望意見等を聞き取りプランに反映させている。必要な時訪問診療の先生や訪問看護の意見を取り入れ担当者会議を実施しその人らしプランの作成に努めている。	多種多様な職員による音楽や芸術(絵画)などの知的活動やレクリエーションを実施しながら本人の心身状態、有する力の現状把握に努め、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の利用状態は、申し送り情報で共有し次のプランへ活かしている。又伝達ノートを使用し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じた柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事地域文化祭など参加したり運営し推進会議のメンバーの自治会長から情報交換し避難訓練など協力を得ています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の要望や思いを聞き取りながら受診の支援している。受診後には、家族に報告している。	本人や家族が希望するかかりつけ医による継続的な医療が受けられるよう、受診支援に努めている。必要に応じて、受診の付き添いを行い、普段の様子や変化など情報交換している。また、認知症の具体的な診断名に応じて、ケアの方法など職員間で情報を共有している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理や状態になる変化に応じ支援を行っている。法人内の病院の協力を得ています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医師と話しをする機会を設けグループホームで対応できる段階で退院出来るように協力している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに対する重度化対応、終末期ケア対応方針を定め方針の共有に努めている。現状タミナル対応は、家族と連携を取りながら要望を聞き病院に協力し対応している。サービス担当会議などで急変時の対応にて確認している。	利用者が重度化した場合や医療的ケアが必要となった場合は本体の医療施設又は他施設に繋げるとした指針を定め、入居前の重要事項説明時に、看取りを行わない方針を伝えたくて家族・利用者の意思確認を行い文書を取り交わしている。入居後も状態の変化に応じて意思確認を行い本人、家族へ事業所が対応できる支援や方針の共有を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法研修止血法や緊急時のマニあるも整備している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し地域の協力体制について運営推進会議で呼びかけ協力を得ています。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。運営推進会議で地域への協力体制に努めている。実施した内容の整備で、気づきや課題など活発な意見交換が期待出来る。また、食料の備蓄リストをもとに、献立の工夫もされている。	



自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し丁寧な声掛けを行っている。話しの内容にや排泄ケア等プライバシーに配慮するように対応をの徹底しています。	本人の意思を尊重し、自己決定しやすいように対応されている。また訴えが難しい方へも嗜好など情報収集し、個性を大切にされている。排泄ケアなどの声掛け対応などの配慮も管理者が中心に指導を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の思いを聞き取りその時の本人の気持ちを尊重し個別性のある支援に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の状態や思いに配慮しながらその日その時本人を尊重して個別性のあるケアを心掛けている。行事がある時は、希望を伺い楽しみがある生活が出来るようにしている。介護計画に沿って個別計画を実施しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は法人内の美容師が2か月1回散髪を無料で行なっています。各々好きな髪形に合わせたり日頃から化粧をやおしゃれを楽のしんでもらえるよう取り組んでいる。個別で洋服を選んでもらえる。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、職員が行うが利用者に要望ききいれながら野菜の下ごしらえや盛り付けやトレイ拭きなどテーブルのチリ箱を捨てなど参加している。	メニューは、リクエストなど利用者と相談しながら決めている。食材の買い物から、調理の一連の動作を職員と一緒に、個々の力を活かしながら役割分担し、食事が楽しめるように努めている。また音や匂い、温かみのある手作りエプロンなど雰囲気づくりを大切にしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮すると共にキザミ、トロミ食器にも気を配っている。水分表も作り水分補給にも努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	舞食後の歯磨き、口腔ケアの声掛けは、入居者の気持ちに配慮し一人ひとりの力に応じた歯磨きの支援している。必要に応じて歯科受診を受けている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄パターンをつかみパットの検討のしながら個別に対応している。個々に合った声掛け尊厳を守るべき排泄への取り組みを心がけをしている。	個々の排泄パターンや習慣を把握し、本人の力を活かしながら、支援をしている。失禁時や拒まれる場合の配慮やケアの方法を勉強会にて共有している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を確認し主治医に相談のもと指示なった下剤を服用している。又、朝食時の牛乳や飲むヨーグルトの提供食後のフルーツなど献立に盛り込んでいる日中の散歩等身体活動に留意する。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、週2回以上で午前中の実施を基本とし回数や時間帯は、利用者の希望に沿って行なわれている全員一部介助である。浴室への移動時、入浴中は、タオルで覆う等羞恥心に配慮している。	入浴を楽しめるように、着替えを自己選択し、個々の希望に沿って、入りたい時に実施できるように努めている。入浴を拒む場合は、状態に合わせて無理強いをせず、声掛けや対応を工夫している。	利用者の安全面へ配慮し、浴室で使用する洗剤・危険物は鍵付きロッカーで保管するなど環境整備が望まれる。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の運動に心がけ一人一人の習慣や体調に合わせて支援している。温かい飲み物や足浴などに心がけている。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から薬の効能と副作用など記入された用紙をケースファイルに添付している。薬の準備や服薬をチェックし二重チェックし確実にやっている。薬の変更時は、連絡ノートで回り職員間で周知し連携観察を徹底する。	職員が内服内容を把握できるように処方箋をファイルで管理し、いつでも確認できるようにしている。服薬の手順はダブルチェックで行い引き続き誤薬がないように、薬への理解、飲み忘れや誤薬防止の取り組みなど服薬支援の統一化を図る為、手順の文書化が望まれる。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の要望の中で外出や嗜好品等を提供している。また日々活動の中から出来る役割を見つける。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日に出かけたり店での散歩にでかけたり地域の中に出かけていけるよう支援している。	個々の生活習慣や桜見学など季節ごとの楽しみに合わせて、気分転換や四季折々の刺激の機会に外出支援をしている。また積極的に、地域の祭りや保育園へ出向き、園児たちとの交流も楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお小遣いを持っているかたで本人の買い物同行など、希望があれば支援している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援しています。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の換気や空調の管理等証明の明るさに気を配り季節のはなを飾る季節の花を飾る様心がけています。	利用者や職員による絵画や工芸などの作品が、共有スペースに馴染むように飾りつけされ、雰囲気作りを工夫している。またテレビや音楽の音量も適度で、また、トイレや室内の消臭を全職員が配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にて他の入居者との交流をしたり一人一人になりたい時居室に戻り過ごされる。等思い思いに過ごしている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家から使っていたタンスや布団を使用し使い慣れたもので生活している。家族の写真も飾り居心地よく過ごせるよう支援している。	家族へ依頼し本人が使用していた馴染みのある家具や落ち着いたアイテム、大切な方の写真を壁に貼るなど個々に合わせた居室作りを工夫している。また、絵画が得意な職員から習い、利用者が仕上げたお気に入りの作品を壁に飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の廊下やトイレに手が設置されており安全に移動安全に移動が出来るようトイレの場所をマーク付ける等の工夫しており安全環境を心がけている。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	45	利用者の安全面へ配慮し、浴室で使用する洗剤・危険物は鍵付きロッカーで保管するなど環境整備が望まれる。	利用者の安全面に配慮した環境整備を行う。	浴室で使用する洗剤・危険物等は利用者の目の届かない場所へ保管し、安全面の配慮を行う。また、月1度は環境整備の検討を行い、安全面や利用者が過ごしやすい環境を整備する。	1ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。